



2024年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年2月8日

上場会社名 株式会社雪国まいたけ

上場取引所 東

コード番号 1375 URL <https://www.maitake.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 湯澤 尚史

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経営企画本部長 (氏名) 櫻井 威典 TEL 025 (778) 0162

四半期報告書提出予定日 2024年2月9日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	35,669	9.9	3,614	25.0	3,255	25.3	2,138	23.4	2,132	23.1	2,140	23.5
2023年3月期第3四半期	32,455	△11.0	2,892	△46.9	2,597	△49.5	1,733	△48.8	1,732	△48.9	1,733	△48.8

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	53.48	53.48
2023年3月期第3四半期	43.44	43.44

(参考)

	コア営業利益		コアEBITDA		コアEBITDA マージン
	百万円	%	百万円	%	%
2024年3月期第3四半期	2,212	△4.8	3,855	△0.8	15.9
2023年3月期第3四半期	2,322	△49.5	3,885	△35.9	16.9

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	40,659	12,285	12,223	30.1
2023年3月期	33,304	10,409	10,409	31.3

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	14.00	-	6.00	20.00
2024年3月期	-	1.00	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	-	-	1.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,467	5.4	1,624	△25.8	1,210	△32.6	780	△34.0	780	△33.9	19.58

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(参考)

	コア営業利益		コアEBITDA		コアEBITDA マージン
	百万円	%	百万円	%	%
通期	1,844	△28.0	4,034	△13.5	12.2

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
除外 1社 （社名）株式会社三蔵農林
（注）株式会社三蔵農林は、2023年4月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	39,910,700株	2023年3月期	39,910,700株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	16,667株	2023年3月期	27,311株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	39,878,835株	2023年3月期3Q	39,870,700株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（その他特記事項）

- (1) 当社グループは、国際会計基準（以下「IFRS」という。）を適用しております。
- (2) コア営業利益＝営業利益－IAS第41号「農業」適用による影響額－その他の収益及び費用－一時的な収益及び費用
- (3) コアEBITDA＝コア営業利益＋減価償却費及び償却費
- (4) コアEBITDAマージン＝コアEBITDA÷売上収益
- (5) IAS第41号「農業」適用による影響額とは、IAS第41号「農業」を適用し、きのこの生産工程である仕込みから収穫時までのきのこを生物資産として、売却費用控除後の公正価値で測定するものであり、当該公正価値の変動による利得及び損失を影響額としております。
- (6) その他の収益及び費用とは、主に減損損失、固定資産除却損等となります。
- (7) 一時的な収益及び費用とは、通常の営業活動では発生しない一過性の収益及び費用となります。前第3四半期連結累計期間においては、一時的な収益及び費用の発生はありません。当第3四半期連結累計期間においては、2023年12月4日付にて実施いたしました海外事業会社の株式取得に関する費用を一時的な費用としております。
- (8) コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンはIFRSにより規定された指標ではなく、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社グループが有用であると考えられる財務指標であります。当該財務指標は、非経常的損益項目及び競合他社に対する当社グループの業績を適切に示さない項目の影響を除外しております。なお、コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、IFRSに準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社グループにおけるコア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があり、その結果、有用性が低下する可能性があります。

（決算補足説明資料（決算説明資料）の入手方法について）

決算補足説明資料（決算説明資料）は、T D n e t で開示するとともに、2024年2月8日付にて当社ウェブサイトに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	6
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(セグメント情報)	12
(1株当たり利益)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日）における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが変更され、経済活動の正常化が一層進んでおります。一方、緊迫する国際情勢やエネルギー価格の高騰、円安による調達価格の上昇、人材不足による労務費の増加を背景とした各種コスト高は、若干の落ち着きが見られるものの高止まりとなっており、企業活動においては楽観できない状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループは、2023年12月5日付にて公表いたしました「海外事業会社の買収に関するお知らせ」のとおり、当社の子会社であるYukiguni Maitake Netherlands Holdings B.V.（2023年10月設立）を通じて、オランダを拠点とするボタン・マッシュルームの製造販売を手がけているほか、オランダ及び周辺国でエキゾチック・マッシュルームについても精力的に事業を展開しているOakfield Champignons B.V.（以下「OC社」という。）及びOakfield Onroerend Goed B.V.（2023年12月4日付で、Yukiguni Maitake Real Estate B.V.に商号変更）の株式を取得し、当社グループ傘下に収めました。OC社の主な事業はボタン・マッシュルームの製造販売となりますが、オランダ及び周辺国ではエキゾチック・マッシュルームのトッププレーヤーの一角であり、また、当社と同様に幅広い直接販売ネットワークを活用し営業活動を行っております。このような特徴から、当社グループとの親和性は高くグループ全体の成長に貢献するものと見込んでおります。

また、当社グループは、事業を取り巻く環境の変化が、2021年11月に策定いたしました中期経営計画の基本戦略の推進に大きな影響を与えていることを踏まえ、中期経営計画の更新が必要であるとの判断に至りました。これにより、2023年12月19日付にて中期経営計画（2024年3月期～2028年3月期）を策定、公表いたしました。

〈中期経営計画の基本方針〉

これまで掲げてきた中長期ビジョン：「プレミアムきこの総合メーカーとしてグローバルに展開し成長する」は変更せず、事業環境変化に対し適切に対応するため「高収益を実現する収益基盤の再構築」、「海外新規拠点の統合と更なる事業展開」を中期経営計画の更新方針として戦略の見直しを図りました。これにより、今回の中期経営計画においては以下の3つの基本方針の下、事業展開を行い、目標達成のため取り組んでまいります。

A. 国内きこの市場：既存のプレミアム事業の強化と新たな事業創出

- ・ 既成のプレミアムポジショニングを強化し他産地との差別化を進め、消費者の品質志向ニーズを着実に捉え、国内事業の更なる強化を図る
- ・ 他産地にないプレミアムアイテムの販売を強化し、更に生きのこ事業以外の新規事業も本格的に着手する

B. ビジネスプロセス：聖域無き全プロセスの合理化

- ・ 全社横断的なBPRによって事業プロセスの改善を行い、コスト削減を実現
- ・ 新規投資による省人化と省エネの推進

C. グローバル展開：新たに取得した海外企業のPMI (Post Merger Integration) と他のターゲットの探索

- ・ 当社のノウハウを生かして、取得した海外企業の更なる業績拡大を目指す
- ・ 国内の事業強化の進展や地政学的リスクを考慮し、追加買収の可能性を追求
- ・ オーガニック戦略は、アジアに加え欧米地域での自社製品販売も検討

〈定量目標（連結ベース）〉

項目	2028年3月期目標	条件が整った場合の アップサイド計画 ※1
売上収益	420億円超	600億円超
海外売上収益比率	6～7%前後	30%前後
コアEBITDAマージン ※2	18%前後	18%前後
投下資本利益率 (ROIC)	10%前後	-

※1 国内の事業強化進展状況や地政学的リスクを考慮し、前提条件が整えば、主に海外事業進展・拡大を目指す計画をアップサイド計画としております。

※2 コアEBITDAマージン：コアEBITDA ÷ 売上収益

コアEBITDA：IFRSの営業利益からIAS第41号「農業」適用による影響額、その他の収益及び費用、一時的な収益及び費用を除外したものに減価償却費及び償却費を加算したもの

なお、各施策の詳細につきましては、2023年12月19日付にて公表いたしました「中期経営計画（2024年3月期～2028年3月期）説明資料」をご覧ください。

当社グループは、新たな中期経営計画の下、急激な事業環境の変化に的確に対応し、国内での事業基盤を更に強化しつつ、引き続きグローバル展開を推進し、安全・安心な製品を提供することを通じて消費者の健康に寄与し、健やかな社会の実現に貢献すべく事業展開を図ってまいります。

当第3四半期連結累計期間の収益は、35,669百万円（前年同期比9.9%増）、このうち、売上収益は、24,309百万円（同5.4%増）となりました。また、売上総利益は、9,978百万円（同11.3%増）となりました。販売費及び一般管理費は、6,461百万円（同7.0%増）となりました。

以上の結果、営業利益は、3,614百万円（同25.0%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、2,132百万円（同23.1%増）となりました。なお、当第3四半期連結累計期間においては、IAS第41号「農業」の適用に関する公正価値変動による利得が、収益に11,359百万円（同20.9%増）、売上原価に9,697百万円（同11.4%増）、それぞれ含まれております。

[2024年3月期第3四半期連結累計期間業績]

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	増減率 (%)
売上収益	23,057	24,309	5.4
公正価値変動による利得	9,398	11,359	20.9
収益合計	32,455	35,669	9.9
営業利益	2,892	3,614	25.0
税引前四半期利益	2,597	3,255	25.3
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,732	2,132	23.1

当第3四半期連結累計期間における事業セグメント別の売上収益の状況は、以下のとおりであります。

なお、前記の新たに取得した海外事業会社の売上収益については、茸事業セグメントの「その他の茸」に含めて報告をしております。当第3四半期連結累計期間における当該海外事業会社の売上収益が売上収益全体に与える影響は軽微であります。

[茸事業]

① まいたけ

当社こだわりの製法、長期熟成・大株栽培ならではのまいたけ「極」の魅力をより広く消費者の皆様にご提供いただくため、関東・関西エリアを中心にテレビCMの放映、CMと連動した店頭企画提案等を実施し、プレミアム感の向上に注力するとともに、当社の強みである豊富な商品ラインアップを活かした販売施策に取り組んでまいりました。これにより、前年同期に比べ販売量は減少いたしました。販売単価は好調に推移いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、まいたけ事業の売上収益は、13,577百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

② エリンギ

安定した生産品質により供給量を維持し、定番の各種量目トレイ製品や利便性の高い大量目スライス製品等、多様な商品提案を実施しております。これにより、前年同期に比べ販売量と販売単価はいずれも大幅に上回りました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、エリンギ事業の売上収益は、2,722百万円（同18.0%増）となりました。

③ ぶなしめじ

青果市況と市場の動向を注視しながら、需給バランスに応じて量目の異なる製品の販売構成を柔軟に切り替え、安定した供給を実施しております。これにより、前年同期に比べ販売量と販売単価はいずれも好調に推移いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、ぶなしめじ事業の売上収益は、4,969百万円（同11.2%増）となりました。

④ その他の茸

マッシュルームは、一時的に生産状況が不安定となったことから、安定供給及び品質向上に取り組みました。そのため販売は前年同期に比べ低調に推移いたしました。また、はたけしめじの販売は堅調に推移いたしました。一方、本しめじの販売は、前年同期に比べ販売量が低調に推移いたしました。また、本「その他の茸」に、新たに取得した海外事業会社の売上収益を含めております。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、その他の茸事業の売上収益は、2,808百万円（同2.7%増）となりました。

[その他]

その他の売上収益は、主に健康食品の販売及び瑞穂農林株式会社を取り扱う培地活性剤によるものであります。当第3四半期連結累計期間においては、健康食品の販売量、培地活性剤の製造及び販売量がいずれも減少いたしました。この結果、その他の売上収益は、231百万円（同16.1%減）となりました。

各事業セグメント別売上収益は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	増減率 (%)
茸事業	22,781	24,077	5.7
まいたけ	13,268	13,577	2.3
エリンギ	2,307	2,722	18.0
ぶなしめじ	4,470	4,969	11.2
その他の茸	2,734	2,808	2.7
その他	276	231	△16.1
売上収益	23,057	24,309	5.4

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末(2023年12月31日時点)の資産合計は、40,659百万円(前連結会計年度末比7,354百万円増)となりました。流動資産は、13,139百万円(同5,958百万円増)となりました。これは主に、現金及び現金同等物が2,160百万円、営業債権及びその他の債権が2,064百万円、公正価値変動による利得により生物資産が1,704百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。非流動資産は、27,520百万円(同1,395百万円増)となりました。これは主に、有形固定資産が690百万円、海外事業会社取得等によりのれん及び無形資産が641百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、28,373百万円(同5,478百万円増)となりました。流動負債は、26,842百万円(同20,249百万円増)となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が14,869百万円、営業債務及びその他の債務が3,059百万円、短期借入金1,800百万円、それぞれ増加したこと等によるものであります。非流動負債は、1,531百万円(同14,770百万円減)となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金への振替等により借入金が14,888百万円減少したこと等によるものであります。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は、12,285百万円(同1,876百万円増)となりました。これは主に、四半期利益の計上等により利益剰余金が1,856百万円増加したこと等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ2,160百万円増加し、3,221百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、3,044百万円（前年同期は1,844百万円の獲得）となりました。これは主に、税引前四半期利益3,255百万円、減価償却費及び償却費1,650百万円並びに営業債務及びその他の債務の増加額1,790百万円等の計上があった一方、営業債権及びその他の債権の増加額1,796百万円、生物資産の増加額1,630百万円の計上等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、2,030百万円（前年同期は2,332百万円の使用）となりました。これは主に、草事業に係る設備更新等に伴う有形固定資産の取得による支出1,150百万円及び子会社株式の取得による支出856百万円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、1,146百万円（前年同期は1,212百万円の使用）となりました。これは主に、短期借入金の借入による収入4,300百万円、長期借入金の借入による収入1,323百万円があった一方、短期借入金の返済による支出2,500百万円及び約定返済の実施により長期借入金の返済による支出1,540百万円等があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想については、2023年11月9日付にて公表いたしました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の通期の連結業績予想より変更はございません。

なお、当該業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2023年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	1,060	3,221
営業債権及びその他の債権	1,907	3,972
棚卸資産	1,422	1,457
生物資産	2,662	4,366
未収法人所得税	21	-
その他の資産	105	120
流動資産合計	7,180	13,139
非流動資産		
有形固定資産	18,966	19,656
投資不動産	95	95
のれん及び無形資産	5,285	5,926
使用権資産	238	262
退職給付に係る資産	313	319
その他の金融資産	191	220
繰延税金資産	990	991
その他の資産	42	46
非流動資産合計	26,124	27,520
資産合計	33,304	40,659

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2023年12月31日)
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	1,877	4,936
未払法人所得税	693	1,119
従業員給付に係る負債	1,683	1,821
短期借入金	-	1,800
1年内返済予定の長期借入金	1,509	16,379
リース負債	152	129
引当金	140	0
その他の金融負債	21	303
その他の負債	515	352
流動負債合計	6,592	26,842
非流動負債		
借入金	16,070	1,182
リース負債	156	202
引当金	20	32
その他の金融負債	54	114
その他の負債	0	0
非流動負債合計	16,302	1,531
負債合計	22,895	28,373
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	△6,012	△6,069
利益剰余金	16,341	18,198
自己株式	△33	△17
その他の資本の構成要素	14	12
親会社の所有者に帰属する持分合計	10,409	12,223
非支配持分	△0	61
資本合計	10,409	12,285
負債及び資本合計	33,304	40,659

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
収益		
売上収益	23,057	24,309
公正価値変動による利得	9,398	11,359
収益合計	32,455	35,669
売上原価 (*1)	23,489	25,691
売上総利益	8,966	9,978
販売費及び一般管理費	6,036	6,461
その他の収益	56	176
その他の費用	94	78
営業利益	2,892	3,614
金融収益	3	0
金融費用	298	360
税引前四半期利益	2,597	3,255
法人所得税費用	864	1,116
四半期利益	1,733	2,138
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	1,732	2,132
非支配持分	0	5
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	43.44	53.48
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	43.44	53.48

経営者は同業他社との比較可能性を勘案し、「材料費、人件費等」の情報は財務諸表利用者にとって有用であると考えていることから、要約四半期連結損益計算書に注記として自主的に開示しております。「材料費、人件費等」は、IAS第41号「農業」に基づき認識した公正価値変動による利得を含まない当社グループが販売した製品の製造原価及び商品の仕入原価であります。

(*1) 売上原価の内訳		
材料費、人件費等	14,782	15,993
公正価値変動による利得	8,707	9,697
合計	23,489	25,691

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
四半期利益	1,733	2,138
その他の包括利益 (税効果控除後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 資本性金融資産	0	5
純損益に振り替えられることのない項目合計	0	5
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の外貨換算差額	-	△3
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	-	△3
その他の包括利益 (税効果控除後) 合計	0	1
四半期包括利益	1,733	2,140
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,732	2,134
非支配持分	0	5

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2022年4月1日残高	100	△6,006	16,411	△48	15	10,471	△1	10,470
四半期利益	-	-	1,732	-	-	1,732	0	1,733
その他の包括利益	-	-	-	-	0	0	-	0
四半期包括利益合計	-	-	1,732	-	0	1,732	0	1,733
株式報酬取引	-	△9	-	15	-	6	-	6
剰余金の配当	-	-	△1,196	-	-	△1,196	-	△1,196
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	3	-	△3	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
所有者との取引額等合計	-	△9	△1,192	15	△3	△1,190	-	△1,190
2022年12月31日時点の残高	100	△6,015	16,951	△33	12	11,014	△0	11,014

当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2023年4月1日残高	100	△6,012	16,341	△33	14	10,409	△0	10,409
四半期利益	-	-	2,132	-	-	2,132	5	2,138
その他の包括利益	-	-	-	-	1	1	-	1
四半期包括利益合計	-	-	2,132	-	1	2,134	5	2,140
株式報酬取引	-	△4	-	15	-	10	-	10
剰余金の配当	-	-	△279	-	-	△279	-	△279
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替	-	-	2	-	△2	-	-	-
その他	-	△51	-	-	-	△51	56	5
所有者との取引額等合計	-	△56	△276	15	△2	△320	56	△263
2023年12月31日時点の残高	100	△6,069	18,198	△17	12	12,223	61	12,285

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	2,597	3,255
減価償却費及び償却費	1,571	1,650
支払利息	285	302
シンジケートローン手数料	13	12
固定資産売却損益 (△は益)	△2	△3
固定資産除却損	73	59
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△1,536	△1,796
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△69	21
生物資産の増減額 (△は増加)	△1,038	△1,630
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	1,657	1,790
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△1	△6
従業員給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△77	138
その他	△57	25
小計	3,418	3,820
利息の支払額	△63	△93
シンジケートローン手数料の支払額	△12	△11
法人所得税の支払額	△1,497	△691
法人所得税の還付額	-	21
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,844	3,044
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,299	△1,150
有形固定資産の売却による収入	3	3
無形資産の取得による支出	△14	△0
子会社株式の取得による支出	-	△856
その他	△21	△26
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,332	△2,030
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の借入による収入	1,500	4,300
短期借入金の返済による支出	-	△2,500
長期借入金の借入による収入	-	1,323
長期借入金の返済による支出	△1,348	△1,540
リース負債の返済による支出	△171	△154
配当金の支払額	△1,193	△281
その他	△0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,212	1,146
現金及び現金同等物に係る為替変動の影響額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,701	2,160
現金及び現金同等物の期首残高	3,723	1,060
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△0	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,022	3,221

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

① 報告セグメント

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会（最高経営意思決定者）が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスについて、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している「茸事業」を報告セグメントとしております。「その他」は報告セグメントに含まれない事業が含まれております。

なお、まいたけ事業、エリンギ事業及びぶなしめじ事業等は、売上収益の推移など経済的特徴が概ね類似しており、かつ、(a) 製品及びサービスの性質、(b) 生産過程の性質、(c) 当該製品及びサービスの顧客の類型又は種類、(d) 当該製品の配送又は当該サービスの提供のために使用する方法、(e) 規制環境の性質のすべてが類似しているため、「茸事業」として集約しております。報告セグメントの事業内容は、次のとおりであります。

	事業内容
茸事業	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじ等、茸製品の製造販売

② 報告セグメント情報

報告セグメントの会計処理の方法は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上収益は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	22,781	276	23,057	-	23,057
セグメント間の内部売上収益	-	-	-	-	-
計	22,781	276	23,057	-	23,057
セグメント利益（△は損失）	2,872	36	2,909	△16	2,892
金融収益					3
金融費用					298
税引前四半期利益					2,597

(注) セグメント利益（△は損失）の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自2023年4月1日 至2023年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	24,077	231	24,309	-	24,309
セグメント間の内部売上収益	-	-	-	-	-
計	24,077	231	24,309	-	24,309
セグメント利益（△は損失）	3,585	38	3,624	△9	3,614
金融収益					0
金融費用					360
税引前四半期利益					3,255

(注) セグメント利益（△は損失）の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

(1株当たり利益)

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定基礎は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	1,732	2,132
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	-	-
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	1,732	2,132
期中平均普通株式数(千株)	39,870	39,878
基本的1株当たり四半期利益(円)	43.44	53.48
希薄化後1株当たり四半期利益算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	1,732	2,132
四半期利益調整額(百万円)	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	1,732	2,132
期中平均普通株式数(千株)	39,870	39,878
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数(千株)	4	3
希薄化後期中平均普通株式数(千株)	39,874	39,881
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	43.44	53.48

(重要な後発事象)

該当事項はありません。